

## 「母子の健康月間」によせて

豊橋ロータリークラブ

岡村正造

(職業分類：病院)



世界には栄養失調や劣悪な衛生環境、不十分な医療体制などのために亡くなる5歳未満の子どもたちが700万人もいると推定されています。そこでRIは毎年4月を『母子と健康月間』と定め、基本的な医療の提供や水と衛生環境の改善などの支援に努めています。

一方、日本における出産前後の母子の死亡率の推移は、妊産婦死亡率は1950年に人口10万対161人であったものが2013年には4人にまで激減すると同時に、早期新生児死亡率も同様に激減しており、日本の周産期医療レベルは今や世界最高水準に達しています。そのため、我が国で近年最も深刻な『母子の健康』に関する問題は、母親の出産後の子育て環境、子供の貧困状態（日本の子供の7人に1人が該当し、OECD加盟国の中でも極めて悪い水準にあります）、乳幼児から学童にまでおよぶ虐待（ネグレクトなどの虐待を行う当事者は母親が主です）、不登校・引きこもりなどでしょう。その深層には、日本の一億総中流といわれた時代から格差・貧困の増大社会への変貌、非正規労働者の増加、大家族から核家族～ひとり親家庭の増加などが思い浮かびます。

私たちロータリアンはこれら母子を取り巻く厳しい日本の現状に対していかに向き合うべきでしょうか。その良いヒントとなる記事が“ロータリーの友”2018年9月号にありましたので紹介します。一つは廃棄食品を活用する『フードバンク』活動で、もう一つは全国各地に広まりつつある『子ども食堂』への支援事業です。日本のロータリアンは子供を貧困から救い「心の健康」が得られるような『子供の居場所づくり』には誰もが協力を惜しまないと確信しています。